

DCON2019の様子



1位と2位で同時にバリュエーション金額を掲げた結果、長岡高専ブレバチーム（右）が優勝となった。左4人は香川高専「MILab & TEAM ARK」チーム。



ベンチャーキャピタルの面々が、「仮に企業だったら投資するかどうか」の目線で審査。審査員は、WILの伊佐山元氏、DBJキャピタルの河合将文氏、IGPIビジネスアナリティクス & インテリジェンスの川上登福氏、東京大学エッジキャピタルの郷治友孝氏、ディープコアの仁木勝雅氏。

ハードウェア×ディープラーニングというメインのコンセプト以外に

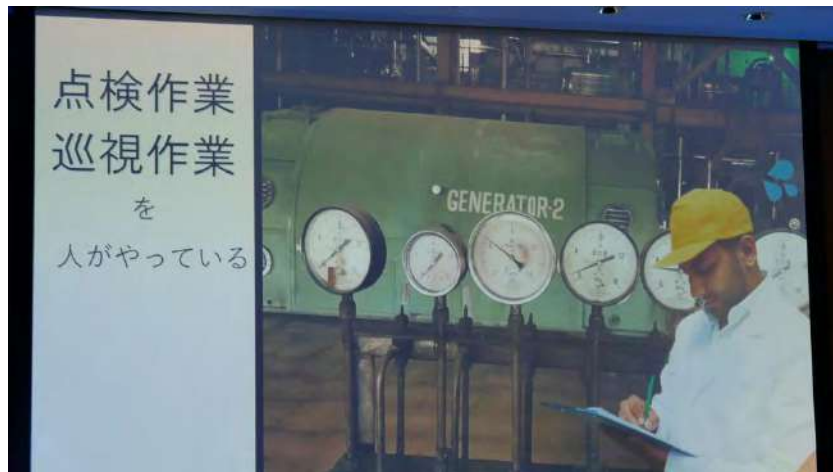
- **事業の提案**：技術ではなくて、（技術をベースにした）事業の提案をする。技術力が高いことは前提。これを社会にどう活かすかが問題。
- **「円」に換算**：すごいね、でもしよせん高専生でしょう、とならないように。一般社会に価値が伝わるように。（初回は、ひどい評価額が出る可能性もあった。）
- **評価に文句をつけさせない**：評価をするVC（ベンチャーキャピタリスト）は一流の人を呼ぶ。バリュエーション、投資額という、スタートアップ投資の文脈で一般的な指標を使う。
- **一流の人が指導**：メンターも一流の人をつける。ちょっとビジネスをかじったような人がアドバイスをするのが一番良くない。きちんとスタートアップを成長させている人にメンタリングをしてもらう。

DCON2019 入賞チーム

1位 長岡工業高等専門学校 長岡高専プレラボチーム

作品名：METERAI

企業評価額：4億円／投資額：4,000万円



【作品概要】

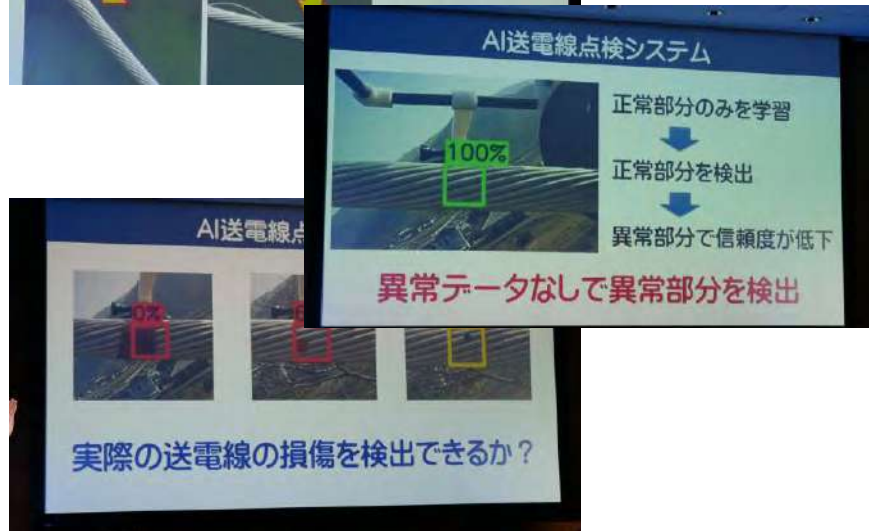
アナログメーターを画像認識で読み取って製造現場を改善する。工場のラインにはさまざまな機器があり、そこにアナログのメーターがあり、点検作業や巡視作業では従業員が目視で確認して手で記録をつけているが、Raspberry Piに搭載したカメラでメーターを読み取れるようにした。Raspberry Piには、ニューラルネットワークのAlexNetを導入して画像解析を行うようにした。メーターから得られるさまざまなデータをリアルタイムで読み取ってビッグデータとして集積でき、電力消費の削減や製品の品質改善に繋がることを目指した。

DCON2019 入賞チーム

2位 香川工業高等専門学校 MILab & TEAM ARK

作品名：送電線点検ロボット

企業評価額：3億円／投資額：3,000万円



【作品概要】

ヘリコプターを使った点検作業もあるが、コストが高く、飛行区域制限があってすべての送電線を点検できないという課題が存在。これを解消するために、送電線を滑走して撮影を行うロボットと、その撮影データをディープラーニングによる解析で異常を検出する、というシステムを開発した。このロボットは約6kgと軽量な上にプロペラを使って機体を浮かせることで容易に送電線に設置でき、振り子型フレームによって重心を常に中心に保つことで、急な傾斜の送電線にも対応できる。